

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Early Developmental Signs in Children with Autism Spectrum Disorder: Results from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 乳幼児期の子どもに見られる自閉症スペクトラム障害の早期徴候

ユニットセンター(UC)等名: 兵庫ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Children

年: 2022

DOI: 10.3390/children9010090

筆頭著者名: 下村 英毅

所属 UC 名: 兵庫ユニットセンター

目的:

自閉症スペクトラム障害(ASD)は、幼児期の神経発達症の一つである。ASD の子どもの早期発見と介入は、子どもとその家族にとって重要である。本研究は、ASD の最も初期の兆候を特定することを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加する子どもを対象に、ASD の有無と、発達の指標となる Ages and Stages Questionnaires (ASQ-3) 調査票のスコアを解析した。ASQ-3 は、コミュニケーション、粗大運動、微細運動、問題解決、個人・社会の 5 つの領域で構成され、それぞれの領域にモニタリングスコア(この値を下回った際に、その後のフォローアップが必要とされるスコア)が設定されている。ASQ-3 スコアは、6 か月、1 歳、3 歳時に収集し、ASD の診断の有無は、保護者の調査票の回答から情報を得た。

結果:

64,501 人の子どもが解析対象となり、そのうち ASD と診断された子どもは 3 歳で 188 人(0.29%)であった。ASD の子どもでは、6 か月時にそれぞれの領域のモニタリングスコアを下回る相対リスク(RR)は高くなり、特にコミュニケーション領域で 1.90、次に微細運動領域で 1.50 と高くなった。また、6 か月時点のコミュニケーション領域のスコアの低値は、3 歳時点での ASD に関連した。

考察(研究の限界を含める):

ASQ-3 は低年齢から使用できる発達の評価ツールであり、6 か月時点で ASQ-3 を用いることで綿密なフォローアップ対象になる子どもを見つけることに有用である可能性が示唆された。コミュニケーションの遅れが ASD の早期兆候であることは過去の報告と同様であるが、6 か月という早期に、かつ多数例で検討できたことは本研究の強みである。本研究の限界としては、専門医による詳細な診断の有無について確認できないこと、また、ASD は 3 歳以降に診断されることも多いが、3 歳時点での診断の有無のみを検討に用いたことなどが挙げられる。今後、長期的な検討が必要と考えられる。

結論:

ASQ-3 を用いて 6 か月時点での発達を評価することで、3 歳時点で ASD の診断に至る可能性のある子どものスクリーニングに役立つ可能性が示唆された。また、ASD の早期兆候としてはコミュニケーションが重要であることが示された。